2018 年 3 月 22 日

オーバーシー・チャイニーズ銀行（OCBC）

金利収入、非金利収入ともに 2 桁増収、AI を使った金融サービスを開発する専門部署を設立

シンガポール| 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG OCBC:SP | REUTERS OCBC.SI

- 2017/12期4Q（10-12月）は、総収益が前年同期比20.8%増の26.29億SGD、純利益は同30.9%増の10.33億SGDとなった。
- 金利収入、非金利収入ともに2桁増収。貸出利鞘が改善したほか、ウェルス・マネジメント、投資銀行、生命保険などが寄与。
- 2018/12通期市場予想は、当期利益が同15.3%増の40.05億SGD。シンガポール初のAIを使った金融サービスを開発する専門部署を設立。

What is the news?

2017/12 期 4Q（10-12 月）は、総収益が前年同期比 20.8%増の 26.29 億 SGD、純利益は同 30.9%増の 10.33 億 SGD となった。正味受取利息は同 13.8%増の 13.82 億 SGD。純金利マージンが同 0.04bp 高まり 1.67%となったことや、期中平均運用資産が同 11%増加したことなどが寄与した。非金利収益は同 30.1%増の 12.05 億 SGD となった。そのうち、手数料・コミッション収入は同 16.9%増の 4.92 億 SGD。ウェルス・マネジメントや投資銀行が好調だった。正味有価証券投資収益は同 75.3%増の 2.84 億 SGD、生命保険部門の収益は同 64.3%増の 2.99 億 SGD と伸びたが、トレーディング収益は同 18.9%減の 0.99 億 SGD と減少した。営業費用は業務量の増加に伴い同 8.8%増の 10.67 億 SGD となった。一方、経費率は 40.6%と前年同期の 45.1%から著しく改善した。正味引当金繰入額は 1.78 億 SGD と、前年同期の 3.05 億 SGD から減少した。持分利益（関連会社からの利益）は、同 65.9%減の 0.28 億 SGD と大幅減であった。

貸出残高は同 7.7%増の 237 十億 SGD。企業向け、個人向けなど幅広く増加した。原油価格の回復にも関わらず、オフショア支援船（OSV）のチャーター・レートおよび資産価格は依然として低迷しており、同セクター向けの債権を格下げ。その影響により、NPL レシオ（不良債権比率）は 1.45%と、前年同期の 1.26%から悪化。預金残高は、同 8%増の 284 十億 SGD 増。49.2%を占める当座預金・普通預金（CASA）が 4%増加したことが寄与した。2017/12 末、預貸率は 82.5%と 2016/12 末の 82.9%から横ばいである。なお、2017/11 にナショナルオーストラリア銀行のシンガポールと香港のプライベート・ウェルス事業の買収が完了したことにより、貸出残高が 20.6 億 SGD、24.2 億 SGD の預金が追加された。

How do we view this?

2018/12 通期の市場予想は、当期利益が同 15.3%増の 40.05 億 SGD である。同社は、シンガポールで初めて AI を使った金融サービスを開発する専門部署「AI Lab」を設立。3 年間で 1 億 USD の開発投資を行い、資産アドバイザリーやローンファイナンスなどでの AI の活用を目指す。AI Lab は現在、シンガポール科学技術研究庁の技術を応用しシンガポール英語などの訛りを正確に理解できる AI の開発をしている。完成すれば、ボイスメッセージを使用して顧客に応答できるサービスが提供できる。

業績推移　※参考レート 1SGD=80.80円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
当期利益（百万SGD）	3,903	3,473	4,146	4,769	5,191
EPS（SGD）	0.95	0.82	0.97	1.12	1.22
PER（倍）	14.13	16.37	13.84	11.98	11.00
BPS（SGD）	8.19	8.61	9.32	9.75	10.53
PBR（倍）	1.64	1.56	1.44	1.38	1.27
配当（SGD）	0.36	0.36	0.36	0.43	0.46
配当利回り（%）	2.68	2.68	2.68	3.20	3.43

（出所：会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

PhillipCapital
Your Partner In Finance

フィリップ証券株式会社

配当予想（SGD）	0.43	（予想はBloomberg）
株価（SGD）	13.42	2018/3/21

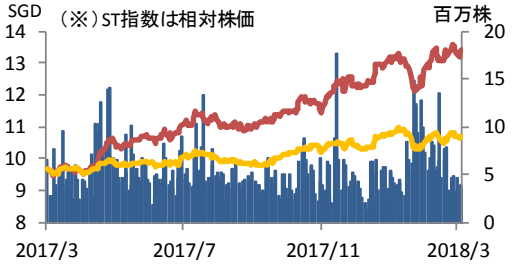
会社概要

1932年に3つの国内銀行が合併し設立。預金、法人・個人向け融資、投資銀行業、プライベートバンキング、国際貿易金融、アセットマネジメント、株式注文取次、保険などのサービスを提供する。資産規模は東南アジアで第2位で、ムーディーズから最も高い格付けであるAa1を付与されている。強固な財務基盤により、米金融専門誌「Global Finance」が選出する世界の安全な銀行トップ50に一貫してランクインし、銀行専門誌「Asia Banker」によりアジア・太平洋地域のベスト・マネージド・バンクに選出された。

シンガポール、マレーシア、インドネシア、および中国を主力市場として、18の国・地域に610以上の支店・駐在事務所を有する。OCBC NISP（インドネシア）では330超、香港、中国、マカオではOCBC Wing Hangにおいて100を超える支店と事務所を展開。プライベートバンキング業務をシンガポールの子会社で、生命保険はシンガポールとマレーシアの子会社である大東方ホールディングスで展開。同生命保険のアセットマネジメント業務は、子会社である東南アジアで最大手クラスのライオン・グローバル・インベスターで行っている。

企業データ（2018/3/22）

ベータ値	1.20
時価総額（百万SGD）	55,654
3ヵ月平均売買代金（百万SGD）	71.7



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2018/3）　（%）

1. Selat Pte Ltd.	11.04
2. Lee Foundation Singapore	4.34
3. Singapore Investments (PTE) LTD	3.75

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

アナリスト
増渕 透吾
togo.masubuchi@phillip.co.jp
+81 3 3666 0707
庵原 浩樹
hiroki.ihara@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103ー0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号
TEL:03-3666-2101 URL：http：//www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹
公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増渕 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項＞
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。